

D J - X 8 2 エキスパート・モードについて

上級者が機能の意味や使い方を分かって設定するセットモード項目です。意味が分からず設定するとかえって使いにくくなったり、電池の消費が増えたりするなどの不都合が出ますのでご注意ください。

[操作]

V F Oモードで[FUNC]キーを長押ししてキーロックしたら、素早く[FUNC]キーを6回続けて押します。操作ビープ音の後に「ピ」と鳴ってuFoの左にEが表示されます。

- ・ セットモード操作をすると詳細説明書に記載がない項目が増えます。
- ・ 同じ操作をすると設定した内容は登録されたまま、エキスパート・モード表示Eと拡張項目を隠せます。ひんばんに変更しない項目なので、セットモードメニューが増えないほうが使い勝手が良いためです。もう一度繰り返すと再度Eと増えた項目が表示されます。

※一旦エキスパート・モードに入って設定を変更すると、表示を隠すことはできてもエキスパート・モード設定を抜けることはできません。設定を全て初期値に戻すかリセットすれば出荷状態と同じ動作に戻ります。

*以下、増える項目だけを説明しています。

*[]内のパラメータが初期値です。

*液晶上のアルファベット表示は通常のフォントでは表せないため、本書ではなるべく似たように見える文字で置き換えています。

① メインメニュー [DISP] 表示設定：

- ・ スキャンランプ SCnLnP [OFF] / ON

スキャンが止まって受信している間、液晶の照明を点灯させたいときはONにします。通常より多く電池を消耗しますが、暗い場所での受信には便利です。

- ・ バッテリーセーブアイコン bSdisp [SET] / RUN

バッテリーセーブのBSアイコンを、BS機能が実際に働いているときだけ表示させたいときはRUNを選びます。RUNにすると、スキャン中などBSが動いていないときはBSアイコンが消えます。車や家電の「エコモード表示」にヒントを得たパラメータです。

- ・ 緑LED発光 GrEEn [ON] / OFF

スケルチが開いたときに光る緑のLEDを常に消したいときはOFFにします。放送を聞くなど長い時間LEDが点灯したままになるときは、OFFにすると僅かでもバッテリー消費を少なくすることができます。

・ DC 時のランプ動作 LMP dC [5-SEC]/ON/ALL OFF/OFF

通常セットモード、液晶点灯の LAMP 機能の DC (USB) 給電時の設定です。DC 運用時は電流消費を気にせずディスプレイを点灯できます。後述の PO MNG 設定が電池 BATT の時は、USB 接続中でも LAMP 設定が優先され、この設定は反映されませんが、後述の PO MNG 設定で変更することもできます。以下の DC 時のスキャンランプと緑 LED 発光も同様です。

・ DC 時のスキャンランプ動作 SCLPdC [OFF]/ON

前述の SCnLnp 機能の DC (USB) 給電時の設定です。

・ DC 時の緑 LED 発光 Grn dC [ON]/OFF

前述の GrEEEn 機能の DC (USB) 給電時の設定です。

② メインメニュー [POW] 電源設定：

・ 充電時間短縮 CHGtin [10hrS] - 1hrS (時間)

充電タイマーを初期値よりも短縮したいときに使います。通常は変更する必要はありませんが、継ぎ足し充電をひんばんに行うと、10 時間のタイマーでは過充電気味になることがあります。これを意識的に管理できるような上級ユーザー向けに設けて 1 時間単位で変更できるようにしました。

・ パワー管理 PO MNG [BATT]/EXT DC/AUTO

BATT は実際の給電方法にかかわらず、LAMP,SCnLnp, GrEEEn の設定を適用します。

EXT DC は実際の給電方法にかかわらず、LMP dC,SCLPdC,Grn dC を適用します。

AUTO は電池か DC かを自動で判別して、それぞれの値を適用します。

③ メインメニュー [R x]受信設定：

・ スケルチカウンター SQL CT: [OFF] SQL/ SMT-1~SMT-6

スケルチが開いた回数をカウントして表示するスケルチカウンターです。その通信がどの程度の頻度で行われているかを知る目安になります。

OFF 以外にして受信画面に戻ると SC-000 とカウンターが表示されます。SQL は全ての回数、SMT は S メーターのレベルで、S1 以上~S6 以上と信号強度でフィルタした回数を表示します。電源をオンオフするとカウントがリセットされます。

*しばらくスケルチが開いていないとカウントされません。スケルチのバタつきなどで無駄にカウントが増えないようにするためです。

④ メインメニュー [MRN] 国際VHFの設定：

- ・ 国際VHF マリン呼び出し周波数 16ch のホールド 16HLD [PUSH]/HOLD

マリンバンドを受信中、チャンネルにかかわらずドットキーを押している間 16ch を受信できますが、ドットキーを一度押すと 16ch 受信、もう一度押すと解除、にしたいときはHOLDを選びます。ドットキーを押して 16ch ホールドを解除しないとダイヤルを回してもチャンネルが変わらないのでご注意ください。

※初期設定ではマリンチャンネル受信機能は WILD キー 1 に割り当てられています。

FUNK キー押下後、[1 WILD1]キーを押すと Mrn CH16 が表示されます。V/P/M キーを押すとメモリーやVFOモードに戻れます。

* [SCAN]メニューにエキスパート項目はありません。

⑤ メインメニュー [KEY] キー操作設定：

- ・ アップダウンキー設定 UP-dn [DISABL]/ENABLE

ENT/VPM をアップキー、ダウンキーに割り当てたいときは ENABLE を選びます。周波数の上下などに、ダイヤルやキー入力ではなく、どうしてもアップダウンキーの操作感が欲しい、という声にお応えしたものです。受信モード切り替えは、V/P/Mボタンを押しながらダイヤルを回すことで行えます。バンド切り替えは、ENTボタンを押しながらダイヤルを回してください。

- ・ セットモード自動確定 SEtnod [MANUAL]/5~25SEC

初期値の MANUAL では、手動でFUNKキーを押すまでセットモード状態を保持しますが、キー操作をしなくなったら自動でセットモードを抜けるまでの時間を5~25秒から選べます。

- ・ VFO スキャン動作 bAnd [ACROSS]/ROTATE

スキャン中、VFO モードのバンドエッジまでくると次のバンド区分へそのまま移動するか、バンド内でスキャンするかを選べます。初期値 ACROSS はバンドエッジを無視してすべての受信周波数をスキャンします。ROTATE は現在の周波数が含まれる帯域だけをスキャンします。例えばVHFエアバンドの帯域だけをVFOスキャンしたい、というようなときに便利です。

- ・ キーロックタイム LCtinE [2-SEC]/500ms~3-SEC

キーロックに入る、FUNKキーを長押しする時間を0.5~3秒の間で変えられます。初期値は2秒です。

・ダイヤル回転方向 rEvErS [OFF]/ON

ダイヤルの回転を逆にできます。ON にすると、たとえば時計方向と説明している向きが逆になります。

・ダイヤルの機能 dial [FR VOL]/FR SQL/VOL SQ

上ダイヤル/下リングに割り当てる操作を変更できます。FR は周波数、VOL は音量、SQ はスケルチレベルです。初期値はダイヤルが周波数、リングが音量、ダイヤル押下がスケルチレベルです。VOL/SQ を選ぶと周波数はダイヤルを一回押してから回して変更します。

⑥ メインメニュー [MR]メモリー設定:

・dUP-At [ON]/OFF クイックメモリーバンク (A Tバンク) に、同じ周波数を重複して書き込むことを可能にしていますが、重複登録させないようにしたければOFF を選びます。

以上